

# 小児科

## 1. スタッフ（平成29年4月1日現在）

			(専門)
科 長 (教 授)	山形 崇倫	神経	
副 科 長 (教 授)	小坂 仁	神経	
副 科 長 (教 授)	田島 敏弘	内分泌代謝	
外来 医長 (准 教 授)	熊谷 秀規	消化器・肝臓	
病棟 医長 (講 師)	田村 大輔	感染症	
病棟 医長 (講 師)	小高 淳	腎臓	
医 員 (学内教授)	森本 哲	血液・腫瘍・免疫	
	河野 由美	新生児	
(准 教 授)	南 孝臣	循環器	
	矢田ゆかり	新生児	
	金井 孝裕	腎臓	
	村松 一洋	神経	
(講 師)	横山 孝二	消化器・肝臓	
	長嶋 雅子	神経	
	小島 華林	神経	
(助 教)	齋藤 貴志	腎臓	
	青柳 順	腎臓	
	早瀬 朋美	血液・腫瘍・免疫	
	翁 由紀子	血液・腫瘍・免疫	
	栗島 真理	リハビリ・神経	
	鈴木 由芽	新生児	
	俣野 美雪	新生児	
	松原 大輔	循環器	
	川原 勇太	血液	
	別井 広幸	腎臓	
	池田 尚広	神経	
	後藤 昌英	神経	
	中村 幸恵	遺伝子治療	
病院助教	横溝亜希子	循環器	
	岡 健介	循環器	
	島村 若通	喘息・アレルギー	
	新島 瞳	血液・腫瘍・免疫	
	鈴木 峻	循環器	
	今川 智之	消化器・肝臓	
	渡邊 知佳		
	鈴木 悠		
	安済 達也	循環器	
レジデント	8名		

## 2. 診療科の特徴

当科は小児の総合診療および多岐にわたる専門診療（神経、発達、心臓、肝臓・消化器、腎臓、内分泌・代謝、血液・腫瘍、膠原病、喘息・アレルギー、遺伝、新

生児、心理）を担当しており、子ども医療センター内で他科の専門外来と連携をとって診療にあたっている。また、救急医療では地域医療機関と連携して、三次救急医療の重要な役割を果たしている。

病棟は急性期病棟、慢性期病棟、周産期センター新生児集中治療部門にわかれ、それぞれ38床、38床、36床の計112床のベッド数を有しており、必要に応じて小児集中治療室での治療も行う。子どもと家族のニーズに応じた包括的な小児医療と、幅広い分野の専門性の高い検査や治療などの高度な医療を提供している。

### ・関連領域専門医認定施設

日本小児科学会専門医研修施設（支援施設）  
 日本小児神経学会 小児神経専門医研修認定施設  
 日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医制度認定研修施設  
 日本てんかん学会 てんかん専門医認定研修施設  
 日本小児循環器学会 小児循環器専門医修練施設  
 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医研修施設  
 日本周産期・新生児医学会基幹認定施設  
 日本血液学会研修指定施設\* 病院全体

### ・認定医

日本小児科学会小児科認定指導医  
 山形 崇倫 他13名  
 日本小児科学会小児科専門医 山形 崇倫 他61名  
 日本小児神経学会認定小児神経科専門医  
 山形 崇倫 他6名  
 日本てんかん学会認定臨床指導医  
 山形 崇倫、小坂 仁  
 日本人類遺伝学会臨床遺伝指導医  
 山形 崇倫、田島 敏弘  
 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医  
 山形 崇倫 他5名  
 日本小児循環器学会専門医 南 孝臣 他3名  
 日本臨床腎移植学会認定医 金井 孝裕  
 日本腎臓学会腎臓指導医 金井 孝裕  
 日本腎臓学会腎臓専門医  
 金井 孝裕、小高 淳  
 日本透析医学会専門医 金井 孝裕  
 日本内分泌学会内分泌代謝（小児科）指導医  
 田島 敏弘  
 日本内分泌学会内分泌代謝（小児科）専門医  
 田島 敏弘  
 日本消化管学会 胃腸科認定医 熊谷 秀規  
 日本消化管学会 胃腸科専門医 熊谷 秀規

- 日本小児栄養消化器肝臓学会認定医  
熊谷 秀樹、横山 孝二
- 日本周産期・新生児医学会指導医  
矢田ゆかり
- 日本周産期・新生児医学会専門医  
矢田ゆかり 他2名
- PALS Provider  
横山 孝二 他11名
- 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース  
インストラクター  
矢田ゆかり 他2名
- 日本血液学会指導医  
森本 哲
- 日本血液学会専門医  
森本 哲 他2名
- 日本造血細胞移植学会認定医  
森本 哲
- 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん指導医  
森本 哲
- 日本小児血液・がん学会 小児血液・がん専門医  
森本 哲 他2名
- 日本医師会認定産業医  
南 孝臣 他5名
- ICD制度協議会認定ICD（インフェクションコントロールドクター）  
後藤 昌英 他1名
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医 2名
- 日本超音波医学会超音波専門医 1名
- 日本東洋医学会専門医 1名

**3. 診療実績・クリニカルインディケーター**

とちぎ子ども医療センターの1年間の小児科総合診療部、専門診療部および入院診療実績について報告する。なお周産期母子総合医療センターのNICUについても一部併記する。

**3-1. 外来診療**

**1) 新来患者数・再来患者数・紹介率**

新来患者延べ数	2,941 人
再来患者延べ数	38,865 人
外来患者延べ数	41,806 人
紹介率	61.9 %

**2) 小児科総合診療部外来**

医師：山形 崇倫（部科長・兼）、小坂 仁（副科長・兼）、森本 哲（兼）、田島 敏広（兼）、南 孝臣（兼）、金井 孝裕（外来医長・兼）、長嶋 雅子（兼）、乗島 真理（兼）、小島 華林（兼）、渡邊 知佳（兼）

診療実績：

総合診療部では、午前中の総合診療部外来と午後の急患対応を行っている。小児科専門医がそれぞれの専門診療部と兼務で診療を行っている。原則として初診は紹介受診のみとしている。近年、不定愁訴を主訴とした、不登校の受診者数は著明に増加しているのは、特記すべき事項である。

小児科の診療では常に総合的判断を必要とするため、

総合診療部で問題を把握し、適切な初期治療、あるいは検査を実施し、必要に応じて、病棟や各専門診療部に振り分ける場合と、総合診療部外来で診療後、地域かかりつけ医に、逆紹介する場合がある。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
855 (805)	905 (722)	1045 (915)	912 (854)	775 (729)	891 (875)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1007 (984)	928 (979)	898 (864)	982 (933)	905 (908)	905 (852)

合計患者数 11,008 (10,420) 人 ( ) 内は2015年

**3) 小児神経外来**

医師：山形 崇倫、小坂 仁、松村 一洋、長嶋 雅子、池田 尚広、乗島 真理、小島 華林、松本 歩、後藤 昌英

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
932	890	1013	801	808	865
7月	8月	9月	10月	11月	12月
810	975	820	664	804	640

年間総受診数10,022人

主な診療対象：

複数の疾患を持つ例が多いため、主要疾患の1か月受診者数の概数を記載する。てんかん 400-500人、脳性麻痺や脳炎等による痙性麻痺 100-150人、自閉症スペクトラム障害、知的障害、学習障害や注意欠陥多動性障害等の発達障害500-600人、先天代謝異常症 約20人、染色体異常や中枢神経形成異常 約70人、神経皮膚症候群 20-30人、筋ジストロフィー、重症筋無力症などの神経筋疾患 30-40人、白質脳症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患 4-5人、チック障害、吃音、頭痛等 30-40人であった。この他、人工呼吸器外来において、35人の在宅人工呼吸器患者を診療している。

**4) 遺伝外来**

医師：野崎 靖之、松本 歩

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
59	70	50	62	62	64
7月	8月	9月	10月	11月	12月
85	73	71	61	81	66

年間総受診数 804人

主な診療対象：

Down症候群、染色体異常症候群、Marfan症候群、Williams症候群などの先天奇形症候群や遺伝子検査、遺伝相談など。なお、染色体異常、遺伝性疾患は、神経外来に通院している患者も多い。

### 5) 小児循環器外来

医師：南 孝臣、片岡 功一、佐藤 智幸、  
松原 大輔、岡 健介、鈴木 峻、古井 貞浩、  
白石 裕比湖

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
323	331	406	341	312	386
7月	8月	9月	10月	11月	12月
314	402	348	347	352	355

年間総受診数 4,217人

主な診療対象：

先天性心疾患（心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、完全大血管転位症、Fallot 四徴症、肺動脈閉鎖症など）の術前と術後、川崎病、不整脈、心筋症、心雑音の精査などを中心に外来診療している。

### 6) 小児腎臓外来

医師：金井 孝裕、伊東 岳峰、小高 淳、  
齋藤 貴志、青柳 順、別井 広幸

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
205	183	255	222	205	175
7月	8月	9月	10月	11月	12月
241	263	218	218	232	199

年間総受診数 2,616人

主な診療対象（1か月あたりの受診者数）：

小児特発性ステロイド感受性ネフローゼ症候群；約50名、IgA腎症；約15名、紫斑病性腎炎；約20名、膜性増殖性糸球体腎炎；2名、ループス腎炎；3名、ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群；約20名、Alport症候群；2名、腹膜透析例；6名、腎移植症例；4名、保存期慢性腎不全；約15名、その他に嚢胞腎、水腎症、尿細管アシドーシス、HUS、急性糸球体腎炎などを診療している。

外来の特色：

急性血液浄化療法から、維持透析療法・生体腎移植前後の管理まで、ほぼ小児腎疾患のすべてを守備範囲としている。また、他の小児専門診療科からの依頼を受けて、血漿交換療法やG-CAPなどの体外循環療法も行っている。院外との連携では県内はもとより、群馬・埼玉・茨城・福島などからも、紹介を受けている。

### 7) 小児内分泌外来

医師：田島 敏広、横山 孝二、小熊 真紀子、  
山崎 雅世

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
111	141	159	147	142	134
7月	8月	9月	10月	11月	12月
143	235	153	157	179	199

年間総受診数 1,900人

主な診療対象：

新生児マススクリーニング検査の2次精密検査、高コレステロール血症、糖尿病、肥満などの代謝性疾患、および成長障害（成長ホルモン分泌不全性低身長など）、副腎疾患、甲状腺疾患、カルシウム・ビタミンD関連疾患、性分化疾患、思春期発来異常などの内分泌疾患が主体である。

また下垂体近傍の腫瘍摘除、あるいは放射線治療後の内分泌障害にも対応している。

### 8) 小児消化器・肝臓外来

医師：桃谷 孝之、熊谷 秀規、横山 孝二、  
今川 智之

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
108	116	151	128	109	112
7月	8月	9月	10月	11月	12月
114	146	118	113	111	107

年間総受診数 1,433人

主な診療対象疾患：

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、腸管ペーチェット病、胃・十二指腸潰瘍、ヘリコバクター・ピロリ感染症（除菌療法を含む）、粘膜脱症候群、若年性ポリープ、機能的胃腸障害（機能的ディスペプシア、過敏性腸症候群など）、B型・C型肝炎ウイルス感染症（キャリア、インターフェロン療法、母子感染予防措置）、胆道閉鎖症（術後を含む）、肝内胆汁うっ滞症（Alagille症候群、症候性肝内胆管減少症、原発性硬化性胆管炎など）、肝硬変（胆道閉鎖症術後、COACH症候群など）、慢性肝炎、急性肝炎（CMV肝炎、EBV肝炎、TTV肝炎など）、脂肪肝疾患（非アルコール性脂肪肝炎、非アルコール性脂肪肝疾患）、肥満症、代謝性肝疾患（Wilson病、NICCDなど）、胆石症、膵炎などの診断や内科的治療を行っている。

急性虫垂炎、Hirschsprung病、メッケル憩室、肥厚性幽門狭窄症、胃食道逆流症、胆道閉鎖症などの外科的疾患、経皮的または腹腔鏡下肝生検、上部・下部消化管内視鏡および小腸内視鏡検査や内視鏡治療に関しては、麻酔科、小児外科、移植外科、消化器内科と連携を取りながら診療を行った。

### 9) 新生児フォローアップ・シナジス外来

医師：河野 由美、矢田 ゆかり、俣野 美雪、  
鈴木 由芽、本間 洋子

診療実績：

新生児フォローアップ

1月	2月	3月	4月	5月	6月
182	186	178	188	191	183
7月	8月	9月	10月	11月	12月
202	189	175	189	183	189

年間総受診数 2,235人

シナジス外来

1月	2月	3月	4月	5月	6月
28	27	31	—	—	—
7月	8月	9月	10月	11月	12月
—	—	21	24	27	27

年間総受診数 185人

主な診療対象：

新生児フォローアップ外来は、NICU退院児を対象として、退院後2週間から小学校3年生まで長期フォローアップを行っている。診療内容は成長・発達の評価とともに合併症の治療や精査、必要な養育支援である。気管切開、在宅酸素療法や経管栄養などの在宅医療を必要とする児も多い。外科系診療科、心理、リハビリテーション部門と連携して包括的な診療を行っている。新生児難聴スクリーニングの精査・フォローも行っている。新生児外来の他に冬期に行われるRSV重症化予防のために別枠で設置したシナジス外来でもパリーブズマブを接種した。

10) 小児血液・腫瘍外来

医師：森本 哲、早瀬 朋美、翁 由紀子、川原 勇太

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
150	121	167	130	129	121
7月	8月	9月	10月	11月	12月
138	203	146	111	133	149

年間総受診数 1,698人

主な診療対象：

急性リンパ性白血病（ALL）や急性骨髄性白血病（AML）、若年性骨髄単球性白血病、悪性リンパ腫、慢性骨髄性白血病などの血液腫瘍疾患、神経芽細胞腫（NBoma）や腎芽腫、肝芽腫、網膜芽腫、脳腫瘍などの悪性固形腫瘍、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH）や血球貪食性リンパ組織球症（HLH）の組織球症、血友病や特発性血小板減少性紫斑病、遺伝性血栓症などの凝固系疾患、再生不良性貧血や遺伝性球状赤血球症、サラセミアなどの赤血球系疾患、慢性良性好中球減少症や重症複合型免疫不全、慢性GVHDなどの白血球・免疫疾患。

2016年の新規腫瘍性疾患は、ALL 4例、悪性リンパ腫 1例、LCH 2例、NBoma 2例、肝芽腫 1例、Ewing肉腫 1例、悪性末梢神経鞘腫瘍 1例、脳腫瘍 1例、胚細胞腫瘍 1例であった。

11) 小児がん経験者の長期フォローアップ外来

医師：森本 哲

診療実績

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	2	8	1	2	1

7月	8月	9月	10月	11月	12月
6	8	6	1	1	2

年間総受診者数 39人

主な対象疾患：

小児期に、白血病などの血液腫瘍性疾患、神経芽腫などの固形腫瘍に対して、化学療法や放射線療法を受けた、18歳以上の患者。

12) 子ども化学療法外来

医師：森本 哲、熊谷 秀規、横山 孝二、早瀬 朋美、川原 勇太、五味 玲（小児脳神経外科）  
診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
29	30	31	28	26	30
7月	8月	9月	10月	11月	12月
39	42	37	39	46	38

年間総受診者数 415人

主な対象疾患：

ALLやLCHの維持療法、脳腫瘍などのイリノテカン／テモゾロミド療法、JIAや炎症性腸疾患などのトシリズマブやインフリキシマブ療法。

13) 喘息・アレルギー外来

医師：熊谷 秀規、佐藤 優子、齋藤 真理

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
89	93	130	94	77	94
7月	8月	9月	10月	11月	12月
112	105	99	91	112	116

年間総受診数 1,212人

主な診療対象：

食物アレルギー、アナフィラキシー、気管支喘息、花粉症、アトピー性皮膚炎、乳児消化管アレルギー、薬物アレルギー、蜂アレルギー、化学物質過敏症など。

\*食物アレルギー、アナフィラキシー

原因食物の特定や除去食導入を行い、栄養指導や薬物療法、誤食予防の指導を行っている。アナフィラキシー症例は、エピペン®（アドレナリン自己注射）を導入し、家庭や学校・園における食事指導と緊急時対応の調整を行っている。診断および耐性獲得確認のため、経口食物負荷試験を行っている。

\*気管支喘息、乳児喘息、運動誘発喘息

中等症ないし重症持続型の患児が大半を占める。心疾患や神経疾患など基礎疾患をもつ児も多く、他の専門領域と連携をとって診療をしている。

## 14) 小児免疫外来

医師：森本 哲、早瀬 朋美、川原 勇太

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
96	94	100	85	73	86
7月	8月	9月	10月	11月	12月
94	96	88	80	85	66

年間総受診者数 1,043人

主な診療対象：

若年性特発性関節炎 (JIA)、全身性エリテマトーデス (SLE)、シェーグレン症候群 (SJS)、若年性皮膚筋炎 (JDM) など。

2015年の主な新規症例は、JIA 4例、溶連菌関連関節炎1例、クローン病関連関節炎1例、PFAPA 1例、自己炎症性疾患1例であった。

## 15) 胎児心エコー外来

医師：片岡 功一、岡 健介

診療実績：

1月	2月	3月	4月	5月	6月
5	3	10	8	5	8
7月	8月	9月	10月	11月	12月
4	7	10	11	6	5

年間総受診数 82人

主な診療対象：

胎児の左心低形成症候群、三尖弁閉鎖症、両大血管右室起始症、Fallot 四徴症、完全大血管転位症、多脾症候群、心臓腫瘍、不整脈など。

その他：院内産科あるいは産科開業医から紹介された、胎児に先天性心疾患や不整脈を持つ妊婦において、胎児心エコー図検査による出生前診断を実施した。

## 16) 1ヵ月健診

乳児健診は原則当院産科から退院した生後1ヶ月児の健診を行っている。また新生児マススクリーニングの結果を外来で家族に説明している。( )内は2015年

1月	2月	3月	4月	5月	6月
71 (80)	52 (60)	70 (94)	64 (55)	64 (71)	62 (72)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
66 (49)	85 (63)	68 (82)	64 (74)	75 (62)	61 (61)

年間総受診数 802 (825)人

## 17) 夜間・休日診療

診療実績：夜間、休日に受診し、小児科医が診療した患者数

1月	2月	3月	4月	5月	6月
222	213	253	210	262	214
7月	8月	9月	10月	11月	12月
302	210	252	268	301	343

年間総延数 3,050人

## 18) 心理検査・心理面接

臨床心理士：星子 真美、氏家 莉沙、村上 瑠璃、

田所 まり子、大森 有美子

診療実績：

心理検査件数

\*総検査数 ( )内は新生児検査

1月	2月	3月	4月	5月	6月
25 (12)	24 (4)	27 (12)	23 (10)	24 (6)	40 (20)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
38 (20)	35 (14)	27 (18)	30 (18)	29 (15)	18 (9)

年間総検査件数 340 (158) 件

心理面接件数

\*総面接数 ( )内は新規面接

1月	2月	3月	4月	5月	6月
89 (6)	88 (2)	94 (3)	101 (2)	76 (2)	84 (2)
7月	8月	9月	10月	11月	12月
71 (3)	62 (3)	64 (4)	78 (5)	57 (3)	62 (5)

年間総面接件数 926 (40) 件

主な対象：

心理検査の内訳として、主に神経外来から知能・発達検査、新生児外来から極低出生体重児のフォローアップ目的で発達検査の依頼があった。また、各外科系診療科から手術前後での知的能力の評価や、治療上必要な手技獲得の指導の目安とすること等を目的に検査が依頼される事例もある。

心理面接は、身体表現性障害や発達障害、それに伴う不登校状態や二次障害についての相談や心理療法の依頼が主である。また、緩和ケアなどの入院している患児・家族への心理的介入の依頼が増加傾向にある。患児に関わる医療スタッフや学校等地域機関との連携にも努めた。患児の状況に応じてより適切な相談機関等の紹介も行っている。その他、研究・調査目的の心理検査についても実施した。

## 3-2. 小児科入院診療

小児科は主として2A病棟と4A病棟で診療し、重症児については小児集中治療室 (PICU) で集中治療を行っている。また、総合周産期母子医療センター (NICU、GCU) で新生児の診療を行っている。

## 1) 小児科の月別新入院患者数 (総合周産期母子医療センターを除く)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
72	81	87	82	80	85
7月	8月	9月	10月	11月	12月
103	96	92	100	80	82

総計年間入院患者数 1,040人

2) 入院患者の疾患別内訳（人数；小児科退院患者大分類別疾病統計（ICD-10ベース）、総合周産期母子医療センターを除く）

章	章名称	ICD	件数		在院日数		平均 在院 日数
1	感染症及び寄生虫症	A00-B99	48	4.4%	471	2.4%	9.8
2	新生物	C00-D48	48	4.4%	1649	8.4%	34.4
3	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89	28	2.6%	952	4.9%	34
4	内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90	48	4.4%	419	2.1%	8.7
5	精神及び行動の障害	F00-F99	6	0.6%	157	0.8%	26.2
6	神経系の疾患	G00-G99	109	10%	1534	7.8%	14.1
7	眼及び付属器の疾患	H00-H59	4	0.4%	90	0.5%	22.5
8	循環器系の疾患	I00-I99	27	2.5%	698	3.6%	25.9
9	呼吸器系の疾患	J00-J99	237	21.8%	4806	24.6%	20.3
10	消化器系の疾患	K00-K93	59	5.4%	1209	6.2%	20.5
11	皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99	8	0.7%	80	0.4%	10
12	筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99	50	4.6%	888	4.5%	17.8
13	腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99	83	7.6%	1526	7.8%	18.4
14	周産期に発生した病態	P00-P96	7	0.6%	94	0.5%	13.4
15	先天奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99	179	16.5%	2828	14.5%	15.8
16	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99	92	8.5%	919	4.7%	10
17	損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98	15	1.4%	164	0.8%	10.9
18	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	Z00-Z99	2	0.2%	26	0.1%	13
19	不明		37	3.4%	1041	5.3%	28.1
総 計			1087		19551		

3) 新生児集中治療部（NICU）の入院実績

1) 年間入院患者数

403名（再転科・転入14名を除く）。院内出生366名（初診時から外来観察67名、母体搬送27名、母体外来紹介272名）、院外出生37名（病院等からの搬送34名、自宅分娩・車中分娩など3名）。

2) 人工呼吸器管理数・率

123例／403例、30.5%。

3) 生存率・死亡数など

出生体重（BW）別、在胎週数（GA）別入院数および死亡数を示す（妊婦健診未受診妊婦からの出生児1名は臨床所見から正期産に加えた）。

GA (W)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
22	1	1	0	100.0
23	3	3	0	100.0
24	2	1	1	50.0
25	2	2	0	100.0
26	2	2	0	100.0
27	1	1	0	100.0
28	3	3	0	100.0
29	7	7	0	100.0
30	9	9	0	100.0
31	14	14	0	100.0
32	13	13	0	100.0
33	25	25	0	100.0
34	28	27	1	96.4
35	32	31	1	96.9
36	28	28	0	100.0
37以上	233	232	1	99.6
計	403	399	4	99.0

BW (g)	入院	生存	死亡	生存率 (%)
<500	-	-	-	-
<1000	17	16	0	94.1
<1500	38	36	2	94.7
<2000	58	58	0	100.0
<2500	85	85	0	100.0
>2500	205	204	1	99.5
計	403	399	4	99.0

4) 死亡症例内訳

在胎35週	早産児、心不全、Bland-White-Garland症候群
在胎34週	極低出生体重児、VATER連合
在胎24週	超低出生体重児、非免疫性胎児水腫
在胎41週	18トリソミー、心室中隔欠損、三尖弁閉鎖

5) 先天性心疾患児入院例

有意な血行動態異常を呈する中等症・重症例34例。PICU転科23例、NICUから退11例、NICU内死亡2例。

6) 多胎入院数

83名（20.6%）。

7) 外科症例数（手術例のみ）

小児外科16例。小児脳神経外科1例、小児耳鼻科2例、眼科3例（光凝固2例、繊維柱帯切開術1例）。

8) 他院への搬送

11例。いずれも状態安定後に搬送元等の病院に転院。

3-3. 主な検査・特殊治療

1) 心臓カテーテル検査・治療

心臓カテーテル検査・治療の総数は158件（カテーテ

ル治療76件、うち成人症例 15例)であった。カテーテルアブレーション、成人症例は循環器内科と合同で検査、治療を行った。対象疾患は、心室中隔欠損28件、心房中隔欠損30件、ファロー四徴症17件、両大血管右室起始症17件、房室中隔欠損症 4 件、三尖弁閉鎖 5 件、左心低形成症候群(重型含む) 3 件、純型肺動脈閉鎖 2 件、単心室(機能的含む) 8 件、完全大血管転位症 4 件、動脈管開存症 9 件、川崎病 3 件、その他(大動脈弓離断、肺動脈弁狭窄、大動脈弁狭窄、肺動脈静脈瘻、エプスタイン奇形)などであった。カテーテル治療76件の内訳は、バルーン血管形成術27件、血管塞栓術(コイル、AVP) 16件、心房中隔欠損閉鎖術(ASO) 22件、動脈管閉鎖術13件(ADO 6 件)、バルーン弁形成術 3 件、心房中隔裂開術 1 件であった。

2) 心臓超音波検査

スクリーニングを含め、3345件施行している。

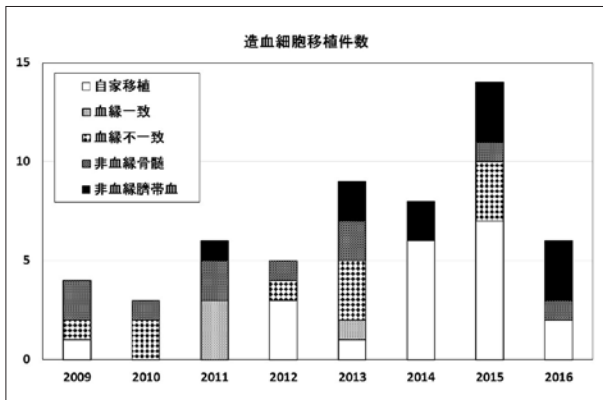
3) 腎生検

2016年に21件施行した(開放腎生検を含む)。

4) 造血細胞移植

2016年に造血細胞移植を6回行った。内訳は、AML 1 回(非血縁骨髓)、MDS 1 回(非血縁臍帯血)、ALL 1 回(非血縁臍帯血)、免疫不全 1 回(非血縁臍帯血)、脳腫瘍 1 回(自家末梢血)、腎腫瘍 1 回(自家末梢血)であった。

2009年以降に当科で造血細胞移植を受けた患者の初回移植後3年の生存率(2016/12/31時点)  
 同種移植(腫瘍性疾患)(N=21) 84.4% (95%CI, 68.3-100)  
 同種移植(非腫瘍性疾患)(N=7) 83.3% (95%CI, 53.5-100)  
 自家移植(腫瘍性疾患)(N=11) 88.9% (95%CI, 68.4-100)



5) 消化器・肝臓系検査

検査実績

A) 消化管系	件数
上部消化管内視鏡検査	19
下部消化管内視鏡検査	44
小腸内視鏡検査	

B) 肝・胆道系	件数
経皮肝生検	2

ダブルバルーン法	7
カプセル内視鏡	0
内視鏡的逆行性膵胆造影	1

6) 生体腎移植

2016年に母親をドナーとする生体腎移植を2件施行した。

3-4. 小児科カンファレンス

毎週月曜日、火曜日、水曜日、金曜日の朝に新入院患者の紹介と討議、水曜午後の総回診で入院患者の病状報告と討議を行った。

小児科における症例検討会(CC)は毎週木曜日18時からカンファレンス室で入院例を中心に検討した。以下症例検討会のテーマと担当を示す。

日時	演題	担当
1月14日	川崎病不全型と急性糸球体腎炎を同時に発症した6歳男児例	松本、倉根、甲賀、山崎(正)、伊東
1月28日	AED解析が診断に有用であった心肺停止蘇生後の14歳男子例	鈴木(峻)、青木、田村、桑島
2月4日	右左シャントを伴う先天性心疾患を有するアラジール症候群に対する肝移植適応について	小児科 佐藤(智)、移植外科 山田直也
2月25日	両大血管右室起始に対するGlenn術後に胃破裂を起こした1歳女児例	朝倉、若林、青木、田村、栗島
3月10日	二次性ネフローゼ症候群を呈した紫斑病性腎炎の1例	古賀、渡邊、今川、青柳
3月31日	顕著な循環不全を呈する心機能障害の新生児例-鑑別疾患と治療-	鈴木(悠)
4月7日	RSウイルス感染症により間質性肺炎を発症した2か月女児	田村、栗島、朝倉、鈴木(峻)
4月14日	ECMO管理で救命しえた重症CMV関連肺炎の乳児例	青柳、渡邊、古賀
4月28日	回腸囊炎の治療に難渋している潰瘍性大腸炎結腸切除後の4歳女児	今川、飯田、黒崎、田村、横山、熊谷
5月12日	再発を繰り返す組織球性壊死性リンパ節炎の一例	板橋、田中、早瀬
5月19日	Focal Chorangiomasによる非免疫性胎児水腫の1例	俣野
6月2日	当科における不整脈診療の現状 -学校心臓病検診に関連して-	佐藤(智)、南
6月9日	小児急性肝不全(PALF; Pediatric acute liver failure)に対し、速やかに血漿交換を導入した1例 -その経過と原因の考察-	増田、植田、松浦、青柳

6月23日	新生児くも膜下出血 (SAH) の1例	池田、山田、吉成、松本
6月30日	当院における18trisomy27例の臨床的検討	小森
7月7日	発達障害児と在宅人工呼吸管理児の支援について	長嶋、栗島、神経班
7月14日	2016年前半 まとめの会	
9月8日	切開排膿ドレナージを必要とした深頸部膿瘍の一例～当院小児科・耳鼻科の過去10年間の症例の検討を含めて～	黒崎、橋本(真)、今川、田村
9月29日	MHC class II 欠損症 (CIITA 遺伝子変異) の1例	松浦、古井(麻)、翁、川原
10月6日	ここが知りたい小児生体腎移植	青柳、腎臓班(小高、金井)
10月13日	エコーウイルス3型によるウイルス性脳炎をきたした新生児の1例	俣野
10月27日	小児がんの診断と地域連携：初発症状と検査所見	森本
11月10日	潰瘍性大腸炎に自己免疫性硬化性胆管炎を併発した1例	北村、井上、今川、田村
11月24日	先天性骨髄不全・腎機能障害を合併した総動脈幹症の6ヶ月女児例	循環器班(松原、廣瀬、鈴木(峻)、岡)血液班、腎臓班、NICU
12月1日	特別講演：論文作成ABC: 明快な論文を短時間で書くコツー原著と症例報告、どこが同じでどこが違う？ー	産婦人科松原教授
12月8日	新生児の低体温療法	鈴木(由)
12月15日	2016年後半 まとめの会	

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	2	1	1	1	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	1	2	5	2	2

年間総開催数21回

#### 4. 2017年の目標・事業計画等

とちぎ子ども医療センター小児科は、小児科疾患の診療のみならず、同センター内、附属病院内のあらゆる診療部門と連携し、小児の全ての疾患領域に対して高度かつ最新の医療を提供する。来年の目標として、①小児科専門診療部門各領域における小児高度医療の推進、難治性疾患の治療成績の更なる向上、②重症児、慢性疾患児の診療や小児救急医療における地域医療機関とネットワークの構築、③小児科医育成の継続、を掲げる。

### 3-5. キャンサーボード

#### 1) 小児緩和ケアカンファランス

患者さんとその家族のQOL向上を目指し、小児科医、小児脳神経外科医、緩和ケア医、看護師、心理士、理学療法士、養護教諭、地域医療連携部などの多種職による「小児緩和ケアチーム」のカンファランスを開催した。

1月	2月	3月	4月	5月	6月
1	2	3	2	2	2
7月	8月	9月	10月	11月	12月
2	3	2	1	2	2

年間総開催数24回

#### 2) 小児腫瘍カンファランス

腫瘍性疾患の集学的治療のため、小児血液腫瘍チーム、小児放射線診断部、外科系各科(小児外科、小児脳外科、小児泌尿器科、移植外科、歯科口腔外科、形成外科など)と腫瘍カンファランスを開催した。